

南浦和中だより

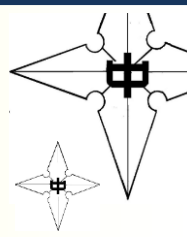
〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909



『白い雲のように』

校長 おお こと うち のり かず 大河内 範一

平成の初め、私がまだ30歳そこそこで、若さだけを勢いに担任をしていた頃の話である。今ではあり得ないような指導内容も含まれているのだが、昔の話なので御容赦いただきたい。

朝、登校してきた女子生徒が神妙な面持ちで「先生、弱っている子犬を拾ったのですが、とりあえず教室のベランダに置いてもいいですか」と聞いてきた。私は「よし分かった。見つからないようにするんだぞ」と、珍妙な指示を出し、一緒に子犬をかくまうことにした。

その日の給食の時間は、動物好きの生徒たちが集まって牛乳やパンを食べさせていた。なんだか楽しそうな様子で、私は微笑ましく眺めていた。ただ、子犬が静かに待機することはやっぱり難しく、また、子犬情報を密告する別のクラスの生徒も出現し、すぐに学校にばれてしまった。「大河内先生の教室に犬がいるようですが…」「ええ、まあ…」というやり取りを上司と行った末、案の上、犬禁止が言い渡された。

何人かの生徒が「先生、子犬の世話をどうしたらいいか、帰りの会で相談したいです」と言ってきたので、どうするか生徒たちに任せることにした。最終的にはシフト表みたいなものを誰かが作成し、子犬を預かって世話をする順番が決まっていた。

子犬の今後については、次の学級会の時間に話し合うことになった。「誰か子犬を貰ってくれる人はいませんか…」という悲痛な訴えに応えられる生徒はなく、困惑が広がっていたが、「犬を貰ってくれる団体が、駅前に時々来ているようだ」という発言で光明が見え、そこをお願いするしかないという結論に至った。

当時、私は8人乗りのワゴン車を所有していて、『子犬対応精鋭部隊』の7名を選抜し、一緒に目的の駅に向かうことになった。〈注：今は乗せてはいけません〉「先生、部活は何と言って休んだらいいですか」「うーん、家庭の都合あたりでいいんじゃないかあ」と、相変わらずいい加減な返答をしていた。駅前で無事に子犬を引き渡した後、このプロジェクトの成功を祝うために、みんなでアイスを食べることになった。〈注：もちろん買ってあげました〉「いいことをすると、アイスが美味しいね！」と生徒たちの笑顔が溢れる中、私も満足げな表情でアイスをペロリとなめたような記憶がある。

こうやって思い返すと、とてもじゃないが良い指導とは言えない部分がたくさんある。でも、教師として頑張ろう、何事にも全力で一生懸命やっていこうという気持ちは持ち続けていたなあと実感している。とにかく、その時その時を全身全霊でぶつかっていくことが大切なんだと思う。そうすれば、思い出はきっと美しく輝き続ける。

夏空に浮かんでいる白い雲を眺めていると、あの時の生徒たちが微笑んでいる幻影が見えたような気がした。「あの頃の僕はハチャメチャだったけど、今はちょっとだけ立派になったよ。みんな元気にしてるかな」と、つぶやいてみた。